

【 重 要 】

シラバス 基礎セミナー A

大学時代に学生はどのように発達するのか

担当教員：中井俊樹

名古屋大学高等教育研究センター

文系総合館 5 階高等教育研究センター会議室

2006 年度前期 2 単位

木曜 4 時限目 (14:45 ~ 16:15)

“Students learn more when they are involved.” €35
Astin, A. (1984)

目的とねらい

大学時代の 4 年間であなたはどのように変わるのかを想像してみませんか。これまで研究者は、学生がどのように発達するのか、また学生がどのような条件のもとでより発達するのかを説明するために、さまざまな理論やモデルをつくってきました。この授業では、大学生の発達に関する基本的な理論といくつかの具体的事例を通して、あなた自身の大学時代を展望するきっかけを与えます。その過程で、大学における学びに必要な基本的なスキルと態度をしっかりと身につけ、知的探求プロセスの楽しみを体験してもらいます。

授業内容

大学時代に学生はどのように発達するのかというテーマに対して、本授業では、映画を分析する、本を探し出してまとめる、学者の研究成果から学ぶ、具体的事例から学ぶ、議論から学ぶなどの多様なアプローチをとります。そして、最終的にはみなさんにミニ研究を体験してもらいます。おおらく、みなさんにとって初めて研究活動になると思いますが、大学人がなぜ研究に熱中しているのかや、研

究することはなぜ重要なのだろうかなども感じてもらえればと思います。

スケジュール

4 月 13 日 オリエンテーション

自己紹介、この授業に関する説明、共に学ぶ仲間をつくる

4 月 20 日 映画の中の若者像 1

映画『グッド・ウィル・ハンティング』をグループで観る、映画の分析方法を学ぶ

4 月 27 日 映画の中の若者像 2

『グッド・ウィル・ハンティング』で描かれる若者像や大学を分析し、クラスで議論する
課題 1 映画分析の発表&レポート提出

5 月 11 日 大学生に関する問いをつくる

大学での問いの立て方の方法を学び、練習する

5 月 18 日 大学生像の変遷

昔の大学生や諸外国の大学生と比較して現在の大学生像に迫る

5 月 25 日 文献レビュー発表 1

大学での発達に関する文献を各自で探し、読み、まとめ、発表

課題 2 文献レビューの発表&レポート提出

6 月 8 日 文献レビュー発表 2

それぞれが発表したものを通して、全体で議論をする

課題 2 文献レビューの発表&レポート提出

6 月 15 日 大学生の発達理論 1

さまざまな研究者の大学生の発達のとらえ方を理解する	授業への参加	20 %
	課題 1 : 映画分析	
	発表	10 %
	レポート	10 %
6月22日 大学生の発達理論 2 これまでの発達理論を通して具体的な事例にあてはめてみる	課題 2 : 文献レビュー	
	発表	10 %
	レポート	15 %
6月29日 ミニ研究計画の構想 研究する方法を学ぶ、初めてのミニ研究をデザインする、自分の使う研究の方法を選ぶ	課題 3 : ミニ研究	
	発表	15 %
	レポート	20 %
	合計	100 %

7月6日 中間発表

ミニ研究の計画と進捗状況を報告し、フィードバックをもらう

7月13日 最終発表 1

ミニ研究の成果を発表します、効果的なプレゼンテーションを期待します

課題 3 ミニ研究発表&レポート提出

7月20日 最終発表 2

ミニ研究の成果を発表します、効果的なプレゼンテーションを期待します、授業をふりかえり総括します

課題 3 ミニ研究発表&レポート提出

成績評価の基準と方法

授業への参加と3つの課題をもとに、(1) 授業の内容の理解、(2) 調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用するなどの基礎的学習スキルの習得、大学での学習のルールを尊重し、(3) 共に学びあう雰囲気にも貢献するという目標にどれほど到達しているのかという基準で成績評価を行ないます。最終の成績評価におけるそれぞれの配分は以下の通りです。

授業への参加

すべての授業に出席してください。また、単に出席するだけでなく授業時間内の学習活動にも積極的に関わってください。みなさんの意見や考え方は、クラスの他の人にとっても貴重な教育資源です。クラスのディスカッションに積極的にそして建設的に参加することが期待されています。また、大学での学習のルールを尊重し、共に学びあう雰囲気に貢献する姿勢も求められます。

課題 1 : 映画分析

『グッド・ウィル・ハンティング』という映画を使って若者像や大学などを分析します。単なる感想ではなく、いくつかのテーマにそって分析してください。映画分析には、(1) 分析の目的と方法(2) 分析の結果、(3) 結果から学べることを、含めてください。レポートは、A4用紙1ページにまとめてください。発表は3分程度で、レポートのハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題2：文献レビュー

この課題では、大学生の発達に関する一冊の本をレビューします。文献レビューでは、(1) 文献の目的、(2) 想定している読者、(3) 内容の強みと弱み、(4) 自分の大学生活への示唆を含めてください。文献の選択は担当教員に決まり次第連絡してください。レポートは、A4用紙1ページにまとめてください。発表は10分以内で、本のハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題3：ミニ研究

この授業で学んだことを用いて、大学生の発達に関するミニ研究を体験します。ミニ研究では、(1) 研究の目的、(2) 研究の意義、(3) 研究の方法、(4) 研究の結果、(5) 結果から得られた示唆を含めてください。レポートは、A4用紙4ページ以内にまとめてください。また発表は10分程度で、レポートのハイライトを中心に報告してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

レポートの書式と提出方法

- ・ 所属と名前を書く
- ・ 参考文献はすべてリストする
- ・ A4用紙を使用する
- ・ すべてのページにページ番号をつける
- ・ ホッチキスでとめて提出する

教科書

特になし。

参考書

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹 (2001)『成長するティップス先生 - 授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。

宇佐美寛 (1999)『大学の授業』東信堂。

名古屋大学 (2005)『学生生活状況調査報告書 (第21回)』。

名古屋大学高等教育研究センター (2005)『ティップス先生からの7つの提案』。

名古屋大学高等教育研究センター (2006)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』。

溝上慎一編 (2002)『大学生論 - 戦後大学生論の系譜をふまえて』ナカニシヤ出版。

溝上慎一 (2004)『現代大学生論 - ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』日本放送出版協会。

溝上慎一編 (2004)『学生の学びを支援する大学教育』東信堂。

速水敏彦『他人を見下す若者たち』講談社。

P. サックス (後藤将之訳) (2000)『恐るべきお子さま大学生たち - 崩壊するアメリカの大学』草思社。

Chickering, A. W., Reisser, L. (1993) Education and Identity, 2nd Ed., Jossey-Bass.

Pascarella, E. T., Terenzini, P. T. (1991) How College Affects Students, San Francisco: Jossey-Bass.

注意事項

多様な学生がこの授業に参加することを期待します。障害をもった学生、留学生など特別な学習支援のニーズを持っている者はすみやかに担当教員に連絡してください。また、他の受講者の学習を阻害する行為、不正行為、

ハラスメントに対しては厳格に対処します。

担当教員

この授業は名古屋大学高等教育研究センター
助教授中井俊樹が担当します。中井研究室は
文系総合館515号室です。私の主な専門領
域は高等教育論です。大学では学生は何を学
ぶべきか、そしてどのような条件で学生はよ
り学ぶのかということに関心があります。学
生の学習に影響を与えるものはたくさんあり
ますが、特に教授法に注目して研究を進めて
います。私の詳しい研究テーマに興味があれば高等教育研究センターのホームページを参
考にしてください。

また、ティーチングアシスタントは、大学
院法学研究科の長谷川乃理さんです。研究分
野は会社法です。

大学生の中には「知の狩人」に変身する学
生も少なくありません。大学での知的探求の
プロセスを楽しめる学生が一人でも増えれば
と思います。

特定のオフィスアワーは授業後以外には設
けませんが、事前にアポイントをとってもら
えれば、授業の内容に関する質問などを答え
る時間を調整します。私宛に課題などの郵便
物を送る場合、電話連絡する場合、メール連
絡する場合は以下のものを利用してください。

連絡先

中井俊樹

464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学高等教育研究センター

052-789-5385

nakai@cshe.nagoya-u.ac.jp

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/>

[nakai.html](http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/nakai.html)

長谷川乃理

gs428@nomolog.nagoya-u.ac.jp